

4. まとめ

4.1 空間 γ 線線量率

対応基準値（200nGy/h）を超えた結果はなかった。

空間 γ 線線量率について、平成23年1月から12月の調査期間における平均値、最大値、最小値等を算出するとともに、その変動範囲及び変動要因について解析を行った。空間 γ 線線量率の変動範囲は、過去3年間の変動範囲とほぼ同程度であった。降雨時または降雪時に空間 γ 線線量率の上昇は認められたが、 γ 線通過率に異常は見られず、人工放射性核種の影響は認められなかった。

4.2 大気浮遊じんの全 α ・全 β 放射能濃度

6時間測定値について、対応基準値（通常的全 β /全 α 放射能濃度比の1.5倍）を超えた結果はなかった。

大気浮遊じんの全 α ・全 β 放射能濃度及び全 β /全 α 放射能濃度比についての平成23年1月から12月の調査期間における平均値、最大値、最小値等を算出するとともに、その変動範囲及び変動要因について解析を行った。大気浮遊じんの全 α ・全 β 放射能濃度の変動範囲は、過去3年間の変動範囲とほぼ同程度であった。全 β /全 α 放射能濃度比に異常は見られず、人工放射性核種の影響は認められなかった。

4.3 対応基準値（全 β /全 α 放射能濃度比）

平成23年に辺戸岬測定所において自動測定装置が更新されたが、更新前後の全 β /全 α 放射能濃度比の平均値に差が見られなかったことから、対応基準値は更新前と同じ値を用いることとした。